

平成 21 年度活動目標「医局」

当院は回復期リハビリテーション病院として、116 床の回復期病床を有しており、この病床数は福岡県内の 3.1%の数にあたる。特に筑紫地区において回復期リハビリテーション病床は少なく、当院は地域のリハビリテーション病院としての役割を担っていると考えている。

回復期リハ病棟の質の向上のために医師が出来ることとして、①医学的知識と技術、②説明能力、③リーダーシップ能力、④リハマインドの向上があげられる。まずは院内のレベルの統一化と更なるレベルアップを目指していきたい。また当院におけるリハビリエビデンスを構築し、入院時からエビデンスを用いた説明を行え、日常生活における身体活動性(ADL)改善率、在宅復帰率を更に向上させる、リハビリテーションについての情報を発信できる病院を目指して行きたい。

文責：医局長・内科部長 鍵山智子

平成 21 年度看護部活動目標

「再発防止のための患者教育の推進」

看護部では 4 つの視点（財務の視点、患者の視点、育成の視点、業務プロセスの視点）からそれぞれの戦略的目標を掲げ、今年度は「脳卒中の再発防止のための患者教育の推進」を重点目標としました。

久山町研究（2005）の結果から 10 年間で 26 %が脳卒中を再発しており、当院においても再発予防をするための患者教育を取り組んでいこうと考えています。

多くの脳卒中患者は、入院中のリハビリテーションによって獲得した機能を維持し、そして障害を持ちながら生活をしていかなければなりません。さらに、再発を繰り返さないように再発予防に努めながら生活していく必要があります。したがって、看護師が患者・家族と共に脳卒中というものを理解してもらい、患者自身で自己管理していくという意識と、自己管理できるための教育を行っていきます。

文責：看護部 部長 中村 真紀

リハビリテーション部における 2009 年度の目標と活動計画

リハビリテーション（リハ）部は、現在、入院リハ、外来リハ、通所リハ、訪問リハの4つの形態でリハを実施しています。また、入院・外来リハは医療保険、通所・訪問リハは介護保険で行っていますが、急性期リハ、回復期リハ、維持期リハは混在して行われています。これらの病期によるリハは、今年の介護報酬の改定、さらには来年の診療報酬改定により、大きく住み分けられることが予想されます。入院・外来リハにて十分に患者さんの回復に努め、それを引き継ぎ通所・訪問リハで積極的な維持向上を目指すために、①各診療体系における専門性の確立②リハスタッフ 160 人のリハ技術の均一化による質の向上 ③実施したリハの効果判定の明確化を目標に今年一年まい進していきたいと考えます。そのために、年間通じてリハスタッフの多方向からの教育・研修を実施します。また、効果判定には、目で見ただけの主観的な分析のみならず、様々なリハ機器も導入して量的、質的效果を明確に提示していきたいと考えています。ここで当院での三次元動作解析装置を使用し、装具装着前後で明らかな歩行スピードの改善(スライド 5)や、治療前後での一例を提示しています。一回の治療前後では、歩行中の床反力（足が床を蹴る力やその方向性）では、治療後麻痺側下肢に、進行方向への推進力が生まれています(スライド 7)。また、関節モーメント（各関節周囲の筋活動）は統一性の無い活動をしていたのが、治療後健常者に近いコントロールされた周期的筋活動に変化するなどの治療効果を示しています(スライド 9)。このようにして、入院治療から、いかに在宅生活にソフトランディングし、生き生きとした在宅生活の継続を支援できるか、チャレンジしていきたいと考えます。

文責：リハビリテーション部 部長 淵 雅子

小児部門 2009 年度活動目標

- 1) 現在、毎月の外来患者数は全体で凡そ 5 千、うち小児は凡そ 2 千、週日の毎日のそれは全体で凡そ 250、うち小児は凡そ 100 である。
外来診療の向上のため以下のことに留意する。
 - ①学校・幼稚園その他各種公的機関との連携をより密接にする。
 - ②外来患者の予約・診療・リハビリ・相談等を多種職種間で密接に連絡を取り合いながら診療水準の向上を図る。
 - ③リハビリ実施計画書の説明等を円滑に行う。
 - ④臨床心理士の導入により、より踏み込んだ心理的アプローチを行う。
- 2) 学会、講演会参加。
日本てんかん協会福岡県支部 30 周年記念講演会と乳幼児けいれん研究会国際シンポジウムに参加。
- 3) 小児勉強会を毎月行っているが、これを含め院内研修会を行う。

文責：名誉院長 黒川 徹